

令和2年度 中小企業団体等との意見交換会について

日 時：令和2年7月29日（水） 14:00～15:30

場 所：Web会議

出席者：アドバイザー1名（大学教授）、中小企業団体3名、金融機関、労働団体、
商工会議所、FAIS、北九州市各1名

1 講演

「アフターコロナの中小企業の在り方を考える」

- ・アドバイザー（大学教授）による、「新型コロナウイルス感染症が及ぼす中小企業への影響調査結果」、「今後中小企業に求められること」等について、本日の議題を進めるうえで導入となる講演をいただく。

2 議題

（テーマ）アフターコロナを見据えて

参加者による状況報告、要望等について発表

（中小企業団体A）

- ・魚町商店街は、コロナの影響で通行量が最大で7割くらい減り、現在は3割減というところまで戻っている。売上の的には、飲食店を中心に7割減、中には9割減というところもあったが、少しずつ戻ってきている。
- ・コロナの影響で、特に商店街としては消費動向が変わってしまい、それはもう元に戻らないのではないかと考えている。その中で、特にインバウンド関係の中国人、韓国人が一切いないという状況もある。
- ・さらに、テレワークの推進により、会社に出てこなくても仕事ができるようになり、人通りが回復しない要因になっている。消費動向も全く変わってきており、欲しいものしか買わないような時代になってきていると感じている。
- ・また、買い回りから配達・配送へ、そういう時代になってきた。特に、オンライン販売も非常に増えてきているという状況。それから、自己顕示型の消費がなくなり、特に着物とか宝石とか時計などでも、必要な商品以外は買わないような時代になってきていると思う。
- ・その中で、販促イベントだけでなく、地域顧客との関係性を深めるということで、これまで14回開催した「まちゼミ」をさらに進化させるとともに、多チャンネル化を進めていく。例えば、時計屋さんでコーヒーの粉を販売したり、ネット販売にもいろいろな形でチャレンジしていく。
- ・「SDGs 商店街」という付加価値を向上させていき、お客様にさらなる満足度を伝えたいと考えている。

(中小企業団体B)

- 建設業は、コロナが始まった3月～5月くらいまでが非常に影響があった。
例えば、材料関係は入ってこないし、納期が2カ月待ちという状況だったが、
最近やっと通常どおりの納期に戻ってきた感じ。
- 当社は、新築とリフォームの割合は、ほぼ半々くらいであるが、今年の2月からほぼリフォームのほうは止まっている。接触をしたくないというお客様が多い。今後、少しずつ戻ってくる見込み。ただし、今までのような状況にはなりにくいのではないかと思う。お客様は、必要最低限のリフォームで、短期間で終わるようなものを望んでいる。さらに、いろいろな業者が入るのではなく、2、3の業者で済むようなリフォーム等が中心になってくるのではないか。
- 労働環境については、我々は労働集約型の企業なので、設計などは、当然テレワークで対応ができるが、現場に行かなければいけないという部分は、どうしても対応が難しくなる。そのため、会社としてはマスクの着用、毎朝の体温の計測、LINE グループでの健康管理、ウイルスガードを付けて出社させている。
- ショールームにおいては人数制限と時間制限をかけているため、全ての商材を案内できない状況。それに伴い、リフォームなどの規模も小さくなる傾向にある。

(中小企業団体C)

- 当団体では、5月くらいからかなりの影響がでていたとの声を聞くようになり、特に飲食関係が大打撃を受けている状況であった。その厳しい状況の中で、テイクアウトを始める事業者からは、ぜひ協力をしてほしいとか、応援してほしいという声がかかり出ていた。
- 会員の中には葬祭業もあるが、葬儀の様相が変わってしまい、家族葬、密葬という形が増えてきている。また、それに関連して、例えば生花販売をしている業種の方は販売量が激減したとか、社葬などが一切なくなったという傾向もあり、いろいろな業種でいろいろな問題点が出てきている。
- 会員からは、当初リモートワークは難しいというイメージであったが、実際にやってみたら、思いのほか大丈夫だった、という話が出ていた。特に、デスクワークが主体の業種だと、ほとんどリモートで問題なくやれているとのこと。ただし、製造の現場では、なかなか現場を離れるわけにいかないなので、その中で体温を測ったり、マスク着用したり、食事のときも距離を置いて食事をするとか、かなり意識的には変わってきている。
- 労働環境に関しては、小学校の休校や保育所の休校により出勤ができない状況になってしまったが、助成金や補助金などを活用し、全部出勤できた形での給与を払えたという報告も出ていた。
- 当協会として、会の活動がほとんどできてないため、使わなかった予算を医療機関に寄付することで、何とか地域に貢献できるような活動をしている。

(労働組合)

- ・今回の新型コロナ関連で労働相談が増えている。雇用関係では、休業補償関係が最も多く、次いで解雇、契約打ち切り等である。
- ・アフターコロナにおいて、連合として一番心配しているのが雇用、とりわけパート、派遣労働者の雇用である。現在、労働者の40%弱が非正規労働者ということで、当然この中には有期雇用を望んでいる方もおられるが、無期雇用を望んでも実現できない状況。いわゆる不本意非正規労働者、この雇用不安をどう減らしていくのかが大きな課題と受け止めている。
- ・2008年のリーマンショック以降、企業の固定費削減が進んでおり、全産業ではないが、企業の非正規雇用率が高くなっている。今回、新型コロナの経済に与える影響は、リーマンショックを越えると言われており、企業の雇用に対する考え方がさらに厳しくなるのではと危惧しているところである。
- ・雇用の安心・安定は消費につながり、家族の幸せにつながっていく。今の日本は、雇用不安が消費を抑え、家族のいらだちにつながってきているのではないだろうかと感じている。
- ・従業員の雇用を1つの企業で守るのはもう限界が来ているのではないかと思っている。いわゆる企業のネットワークで守ることができないか。特に、北九州はSDGsクラブへの加入を積極的に進めているが、そのような企業群で、企業のネットワークで雇用が守れないかと、ぜひ検討していただきたい。
- ・業績が厳しいときだけでなく、一時的に忙しい業種には他企業から応援、派遣をするとか、安全面に十分配慮すれば Win-Win の関係が構築されるのではないだろうか。明日どうなるか分からない雇用では、人生設計も立てられないし、仕事にやりがいも感じないと思う。また、「起業 (スタートアップ)」について、若者を中心に積極的に政策を打たれているが、そういうところで働く労働者の雇用形態についても、企業のネットワーク、企業群で支え合う形が必要ではないかと考えている。

(金融機関)

- ・北九州銀行協会は、30数行加盟しており、このコロナに対する融資の申込みは、保証協会付きも含めて、3月から増えている。3月、4月、5月のゴールデンウィークに各銀行、相談窓口を休日相談ということで開けて、制度が明確化してから、4月の約3倍申し込みが増えている。6月に入って上限の引き上げを行ったが融資の実行件数は落ち着いた状態になっている。
- ・福岡県保証協会付きの融資についても、協会の手続きは5月の時点で7週間も待たされていたが、今は比較的スムーズにいつているということである。
- ・内容については、3月、4月は、中小企業や個人事業主の喫緊の資金繰り支援から始まり、大体5月くらいになると中小・中堅企業くらいで、これは少し長引きそうだということもあって、無利子の融資が国のほうからも出たので、手元資金の手元流動化の蓄えという意味合いも少し増えてきた。

- ・同時期に、大企業のほうでも、サプライチェーンが入ってこなくなったという話が広まってきたため、大企業に関しては、基本的にバックアップラインの増設、増加みたいな形での融資対応を行っているところである。
- ・アフターコロナ、ポストコロナを見据えて、銀行のほうではこの傷んだ財務をどう回復させながら、新しい事業、事業ドメインの領域をどう変えていくかとか、今のままの働き方、今のままのサプライチェーン、今のままの企業に関わる全てことにおいて、どこがネックになってきたかというのを、ヒアリングを通じて解決策を提案している状況である。
- ・その中で、企業の代表者の中には、今回のコロナで、自分の事業をじっくり見つめ直す時間ができたと、前向きに捉えられて、もう一度事業内容を見つめ直して、戦略を練られている方もいる。

(支援機関)

- ・商工会議所としましては、1月31日に新型コロナウイルスの特別相談窓口を、門司、若松、八幡、戸畑のサービスセンターと、本所の1階に設置した。
- ・相談件数は、対前年比を見ると3～6月で2倍、特に深刻な金融の相談は約3倍になっている。また4月23日からは、小倉地区の特別相談窓口を6ブース開設している。
- ・相談の傾向は、3、4、5月までは金融相談で、5、6月が給付金の相談、今一番多いのは小規模事業者持続化補助金の相談が急増している。本来なら、一般型という形で、販路開拓、生産性向上などの取組みを支援する補助金であるが、本年度はコロナ特別対応型という形を創設し、新型コロナウイルスが事業環境に与える影響を乗り越えるために、前向きな投資を行いながら、販路開拓等に取り組む事業者への重点的支援という補助金になっている。
- ・現在、何とかこの前向きな補助金を活用して頑張ろうという企業を応援したいという思いで、職員一丸となって補助金申請の支援を行っているところである。

(支援機関)

- ・製造業の企業の声として、発注元の大企業がテレワーク化に取り組んでいることに伴い、事務作業がリアルの時に比べると少し滞っている。さらにそれが停滞していることで、その前工程の見積もりとか、部材調達の打診というのが、極端に減少しているという話があった。また、地域内のサプライチェーンが結構変化してきているという話もあった。
- ・2～3月頃、飲食やサービス業が非常に悪化し、その後、製造業も悪化していったという感じだが、サービス業の方は足元、例えば、夜食のお店が昼食や外販を行ったり、例えば、スポーツ施設が、学校が休学になり、子ども向けのサービスを行ったり、サービス業しか行っていない企業が物販に乗り出したりということで、結構、柔軟に業態を変更するという対応をされている所もある。
- ・一方、製造業は、なかなかそういうわけにはいかずに、大変ご苦労しているように感じる。

- ・今回、中小企業支援センターの巡回相談員がヒアリングを行った小規模事業者の中で、3分の1から約半数の企業が、「持続化給付金」の給付を受けているということであった。企業の声を聞いても、小規模事業者にとって、この制度は非常に有効であったということだが、一方で、これは逆に言えば、相当な数の企業が極端な減収、売上減に落ち入っているという状況だと思ふ。
- ・例えば販売先が1社に依存していた企業というのは、かなり打撃が大きかったと思われる。また、これまで製品よりも、営業に強みをもっていたという企業については、対面営業とか、訪問営業ができなくなったということもあって、かなり大きな打撃を受けているという例がある。
- ・今後について販売先・仕入先の両面から取引先のポートフォリオを再構築していく必要があるのかと思っており、地域内のサプライチェーンということも含めて、今後はそのような構築のお手伝いすることを考えている。
- ・また、今後のオンライン化の取組みについては、F A I Sの中の情報産業振興グループを中心に、テレワークサポート事業に取り組んでいく予定である。

3 フリーディスカッション

- ドメインの見直し、それに伴うビジネスモデルの再構築が必要である。
- リモートワークというのは一つキーワードとして、様々な企業が取り組んでいるが、まだまだ全ての所ができない。
- 中小企業というのは地域になくてはならない企業として、地域の人に認めてもらうということが大事であるが、1社だけではなかなか露出度の面などで問題がある。そこで何か問題意識を持った企業同士がネットワークを組めるような場というのが、これから必要になってくるのではないかと思っている。

(その他の意見)

- ・当社はドメインの見直しを行っている。具体的には不動産事業で、例えば空き家の改修を行う場合、そこに関わる建設業者で、工務店、内装屋、電気屋、設備屋など、そういう建築に関連した業者を集めて、全員で出資して不動産会社をつくり、物件を自分たちで買って、自分たちで仕事をつくり出すという、新しいネットワーク型の事業を進めている。
- ・例えば飲食とかサービス業は、ドメインの変更が意外とできているのではないかと思うが、製造業はドメインの見直しは、なかなか進んでいない。製造業という業種そのものがドメインの見直し自体難しいという面があるのではないかと思う。ただ一方で、アフターコロナとかウィズコロナをみたときには、非常に必要なことだと考える。
- ・これを機会に、新しいビジネスモデルを考える必要がある。例えば、営業のスタイルであったり、組織のあり方であったり、販売のあり方であったり、サプライチェーンのあり方であったり、今までのビジネスを見つめ直す必要があると考える。それが、足腰の強い中小企業・製造業につながっていくのではないかと考える。

【まとめ】

- ・コロナ対策は「短期」と、「短期以外のもの」に分けて考える必要がある。短期は、やはり企業がつぶれてしまわないようにするため、1つは手元流動性を高めるといことで、国の補助金などを活用するということになるろうかと思う。一方で中期的、あるいは少し長期的なものであるが、これを機にドメインの見直しなど、企業のあり方を見つめ直してみる必要がある。まさにこのコロナを機として、第二創業的にビジネスモデルを見直してみてもどうか。
- ・また、もう1つは「ネットワーク」である。思いを一緒にする企業同士が、ネットワークを組んで乗り越えたり、将来やっていくということも、これからの中小企業にとって大事なことはないか考える。それは何も、同業種だとか関連業種だけではなくて、異業種と組んでネットワークをするということも、大事な視点ではないかなと思う。このコロナを機に、何かそういう中期的・長期的なこともあらためて再構築していただきたい。